

## 第一張

姓名：田○旻

單位：成功大學歷史系所碩士班

請問斯波先生：

大陸北方存在以信仰為中心而形成的「香會」組織、但與上海及台南的「會」「郊」組織相比、其財力及行政權力遠不及。請問是否是由於政府部門的缺位導致原本的信仰組織轉變為綜合性的區域自治組織

答：

這個問題指出、中國南北地方上的民間信仰結社的本質、以及活動內容或有不同之處。這個問題的着眼點非常有意義。

目前人類學、民俗學、社會史的研究都還在草創期、尚無法作全體性的具體說明、人類學學者、如 Miron Cohen 就對家族、宗族、族產等主題、議論了北方、華中·華南之間的本質性之差異。

關於信仰、可參照歷史家 Richard Von Glahn 的 *The Sinister Way (左道): The Divine and the Demonic in Chinese Religious Culture* (2004, Univ. Calif.Press) 一文中的概觀。

概觀如下：家族的祭祀、在古代是撫慰敬畏的祖先、在南北朝的佛教影響下、轉變成家族的道德性供養、經過唐宋的轉機、儒佛道三教也從組織宗教《教團·宗派·僧職》世俗化、之中以通俗道經最具代表性、這世俗化主要在地域·地方上展開、主神乃由地方守護神演變成有官爵神、即東岳、真武、城隍、觀音、梓潼、天妃、關帝等統率着其他諸神的信仰。

台南的盛大寺廟信仰應是在北宋以後、隨着閩南、潮州民的移住而帶進的。華南的一府州、一縣的人口規模、都比北方大、官憲的行政上的干涉也比北方疏緩、民間的自治活動力和活動內容都大為活潑、他們一方面避免和官憲之間的摩擦、而在宗教組織和宗教活動上充分地反映了其勢力。

關於台南的土地公會、Kristofer M.Schipper, “Neighborhood Cult Association in Traditional Tainan” ( G.W. Skinner, ed.,*The City in Late Imperial China*, 1977,Stanford)

的文章裡有詳細論述。土地公會的「爐主」需要負責廟和周邊道路的清潔、維持清幽、禁止流浪漢徘徊或賭博、將高建築物視為《風水之害》、逐一向官憲報告請求處罰、這些要項都記載刻印在碑文上、「三益堂」《三郊》擁有輕微罪狀的調停和處罰的權限。此外、浙江省寧波府的負郭、鄞縣的都市和郊外的寺廟組織裏也有「境」「堡」(『民國鄞縣通志』輿地志·廟社)、

『民國佛山鎮志』裡也記載有「社」「鋪」等和「境」同樣基層的組織。

(文責：林秀薇)

## 第一張

姓名：田○旻

單位：成功大學歷史系所碩士班

斯波先生、

大陸の北方は、信仰を中心として形成した「香会」組織が存在しましたが、上海および台南の「会」「郊」組織と比べ、その財力や行政権力は遠く及びませんでした。それは、政府が指導力に欠けていたことにより、元々の信仰組織が総合的な地域の自治組織に変化を遂げたということでしょうか。

答：

中国の南北で民間の宗教信仰結社の在り方、および活動内容に相違があったのではないかと、というご質問は、非常に重要で意味深長なご指摘です。

まだ人類学、民俗学、社会史の研究が草創期なので、全体像を具体的にご説明できないのは残念ですが、人類学者は家族、宗族、宗祠、族産について、北方と華中・華南との間で在り方が相当に違うことを議論しています（Miron Cohen など）。信仰について、歴史家の Richard von Glahn の *The Sinister Way (左道) : The Divine and the Demonic in Chinese Religious Culture*, 2004, Univ. Calif. Press) の概観が参考になります。家族の祭が、畏怖する祖霊を慰撫する古代の形から、南北朝に仏教の影響の下で家族道徳的な供養に変わったこと、唐宋時代を転機として儒仏道の三教でも、組織宗教《教団・宗派・僧職》から通俗道経に代表される世俗化が地域・地方を中心として展開して行き、主神は地方守護神→有官爵神（東岳、真武、城隍、観音、梓潼、天妃、閩帝）になって他の神々を統率した、と説いています。台南の盛大な寺廟信仰（北宋以後の）は、閩南、潮州民の移住に伴って移ってきたと考えられます。華南は1府州、1県当たりの人口規模が北方に較べれば多いために、官憲の行政上の干渉も北方よりは緩く、民間の自治活動の力も内容もより活発に行われ、官憲との摩擦を避けて、宗教組織や宗教活動にそれが反映されていた、と考えられます。台南の土地公会是、Kristofer M. Schipper, "Neighborhood Cult Associations in Traditional Tainan" (G.W. Skinner, ed., *The City in Late Imperial China*, 1977, Stanford) に説かれています。土地公会の「炉主」は、廟やその街路の清掃、清閑、の維持、徘徊者・賭博の禁止、高い建物《風水の害》の禁止を官憲に報告して処罰できたと碑文に刻まれており、「三益堂」《三郊》も、軽微な調停や処罰の権限をもっていました。なお、浙江寧波府の負郭の鄞県の都市や郊外の寺廟の組織にも「境」「堡」があり（『民國鄞県通志』輿地志・廟社）、『民國仏山鎮志』にも「社」「鋪」の名で「境」と同様な基層の組織が有ったことを伝えています。

## 第二張

姓名：曾○

單位：自由文史工作者

土地公會管理遮蔽裡線的高層建築是否被嚴格執行？每個「境」皆如此嗎？  
高度是否以該廟高度基準？

答：

關於土地公會抗議高層商店的建築並令其撤毀的記述、可參見 Kristofer M.Schipper, “Neighborhood Cult Association in Traditional Tainan” ( G.W. Skinner, ed.,TheCity in Late Imperial China, 1977,Stanford、pp651-76)的 pp675-676。

西門外的<看西街>的西邊盡頭的土地公廟裡有 1812 年的碑文、上刻有如下的記述、廟之內外需維持寧靜和美觀、排除流浪漢的徘徊或賭博行為是<爐主>的任務、違反者需送官憲接受處罰、又若有蓋建高層建築物的商店、或設有阻礙街道的布簾、爐主都有排除的任務、1778 年的碑文更記載、土地公廟的左鄰重建了極端高巨的建築物、造成信者們的不滿、當時便在街頭募款令其解體改建為低層樓房、募款所剩下的餘額則充當為例年的祭祀支出、募款者的芳名列刻在上、並明言日後無需再向諸位徵收每年春秋舉行的戲劇費用、即免除了「緣銀」的寄付。

至於為何限制建築物的高度、其理由被推測是太高的建築物將妨害到神明的威力。

又、我曾經訪問德國一個叫謬斯達的古都、導遊介紹他們用瓦礫復元在戰爭時崩壞的城壁、同時規定之後的建築物高度都不得超過這個城壁。這是市民團體制定規約的事例、台南土地公會、則是以傳統的風水觀念制定了附近的建築物之高度限制。

(文責：林秀薇)

## 第二張

姓名：曾○

單位：自由文史工作者

土地公会是領域内における高層建築の阻止を管理したとのことですが、それは厳格に実施されたのでしょうか。また、それぞれの「境」が皆このように管理されていたのでしょうか。高さは、廟の高さを基準にしたのでしょうか。

答：

土地公会在高層の商店に抗議して取り壊した、という記述は、Kristofer M. Schipper “Neighborhood Cult Associations in Traditional Tainan” (in G. W. Skinner, ed., *The City in Late Imperial China*, 1977, Stanford, pp.651-76) の pp.675-676 をご覧下さい。西門外の〈看西街〉の西詰めにあった土地公廟にあった 1812 年の碑文に刻まれた記述に、廟の内外を静謐また綺麗に維持すること、徘徊者・賭博者を排除することが〈炉主〉の任務であって、違反者は官憲に届けて処罰を与える、また高層な建築物を建てる商店・街路を妨げるような暖簾を排除する任務もあり、1778 年の碑文には、土地公廟の左隣の店が極端に高い建物を再建して街路の信者達が迷惑したとき、この街路で募金をしてその建物を解体して低くさせ、この募金の残金は年例の祭礼の支出に充当しているので、このリストに名を連ねた寄付者は春秋の芝居を催すための「縁銀」（寄付）を今後は出さなくて良い、と刻まれています。

〈高さ〉を制限したのは、風水が廟の〈神明〉の威力を妨げる、と言う理由だと思われまます。

なお、私が西ドイツのミュンスターという古い都市を訪ねたとき、戦争で崩れた城壁を、その瓦礫を元にして旧態に復元し、同時にこの城壁の高さを超える建物をこの都市では禁止している、と説明を受けたことがあります。これは市民団体の規約で定められている事例ですが、台南の土地公会の場合は、伝統の風水観念によって高さの制限を加えた事例だと考えます。

### 第三張

姓名：龍○霖

單位：國立成功大學歷史系所

先生您好、請問你的論述中提到「中國的城市、都是源自於偏遠地區」、「偏遠」的定義、是如何？與中央政府的相對距離、或是其他地理位置的？另外、「城市」的功能是只指商業性？

答：

關於「中國的都市都是源自於偏遠地區」一文說的是、從中國的大·中·小都市、農村所看到的集落的共通屬性、都是沿着河川的盆地或定居、或生產、或交換集散、以經營這生活活動的三要素為目的所選定的地點而發展的、之意思。中國有礦山都市、溫泉都市之類、選擇高地而發展成都市的是例外。都市的地名也多與水源資源有關、如河曲、曲江、長沙、川沙、長汀、遷江、江寧、平江、安溪、鎮江、甘泉、龍泉、荷澤、聖池、平湖等。

一方面、地理上的中國、由東向西、①長白山→天目山→武夷山、②興安嶺→大行山、③大雪山的山系為南北走向、北有陰山、中央有秦嶺、南有南嶺的山系則東西連綿與河川系交差、自然的地形有8到9個「大地域」、即（北中國、北西中國、長江上流、長江中流、贛、長江下流、東南海岸、嶺南、雲貴）的地域。

自古以來、中國人自認為<定住·定居之民> = 農耕·城居民、狩獵遊牧民或森林山地民則稱為<行國之民>、向來有所區別、沿着河川的盆地開始有城墉集落、周邊農地也延伸、隨着物流集散和交通的整備、才在重要地點發展成都市、這在古時為<邑>

（都、國、城、鄉也是）、春秋戰國時代才有<郡>、<縣>、漢代開始有<州>、唐代開始把<州>的一部分稱為<府>。

基於這個演變、我們可以理解、幾乎所有的都市均是由盆地的小集落出發、在其勢力範圍所及的地域上、隨着其社會性和經濟性的環境發展、人口增加、都市從一個集落晉升到一個具有中心性水準的地位。

（文責：林秀薇）

### 第三張

姓名：龍○霖

單位：國立成功大學歷史系所

先生、こんにちは。先生は、講演の中で「中国の都市は、何れも元々辺地に生まれた」と述べられましたが、「辺地」の定義について、どのようにお考えですか。中央政府からの距離でしょうか。それとも、地理的な立地でしょうか。また、「都市」の機能とは、商業性のみを指すのでしょうか。

答：

「都市がもともと辺地に生まれた」と申しましたのは、中国の大・中・小都市、農村を含めて見た集落の共通の属性として、河川沿いの盆地が定住、生産、交換という生活活動の三要素を営むための立地として選ばれている、という意味です。中国では鉱山都市、温泉都市のように、高地を選んで都市が発達したという事例はむしろ例外です。都市の地名にしても河曲、曲江、長沙、川沙、長汀、遷江、江寧、平江、安溪、鎮江、甘泉、龍泉、荷澤、聖池、平湖など、河川などの水資源に関わる命名が夥しくあります。一方、地理上の中国は、東から西へ、①長白山→天目山→武夷山、②興安嶺→太行山、③大雪山の山系が南北に走り、北に陰山、中央に秦嶺、南に南嶺の山系が東西に連なっていて河川系と交差しているため、自然の地形としては8ないし9の「大地域」（北中国、北西中国、長江上流、長江中流、贛、長江下流、東南海岸、嶺南、雲貴）に分かれていたと見ることができます。

太古から、中国人は〈定住・定居の民〉＝農耕・城居民として自認し、狩猟遊牧民、森林山地民を〈行國の民〉として区別していたとされますから、河川沿いの盆地に城郭集落をつくり、周辺の農地を広げ、物流・交通の整備とともに要地に都市を営むようになり、これが古くは〈邑〉（都、國、城、郷などとも）と呼ばれ、春秋戦国時代のころから〈郡〉〈縣〉を生みだし、漢代から〈州〉、唐代から〈州〉の一部を〈府〉と呼ぶようになりました。こうした意味で、ほとんどの都市は盆地の小集落から出発し、後背（服裏）地域の社会的、経済的環境が発展するのに合わせて人口も増えて集落としての中心性のレベルを上昇させたと考えられます。

#### 第四張

姓名：陳○祥

單位：應數所

請問教授、您覺得研究這些古老都市的發展、能帶給現代都市與文明發展什麼樣的啟示？

答：

就西方城市自治的角度來看，往往把中國的都市，尤其是縣級以上的行政都市，視為是官僚群聚之所，並透過官僚發揮其行政功能，且因縣城或省城可將徵收到的稅收進行重分配，在經濟上也能自給自足。而儘管在都市（縣城或省城）中也有商人、手工業者及勞動者這些不同層級的存在，但他們往往受制於家族、宗族的血緣團體，抑或是像是會館、公所等這類社會團體的制約，而無法產生類似中古歐洲時期的都市中的市民，擁有自治、自由、個人自主、合理性的行動、社會福利與互惠互利等這類傳統。這種將中國的都市作為缺乏西方城市的自治觀、自由市民概念的反面教材而被考察的例子，從馬克思韋伯所著《宗教社會論集：儒教與道教》一書提出之後，可說由來已久。

不過另一方面，近年歐美的中國史研究者開始出現一種新的說法，亦即他們開始主張，其實從世界史的角度來看，中國不論是唐宋時代或明清時期，都市蓬勃發展，聚集都市的人口數量佔總人口數之比例恐為世界第一，而且都市化的程度幾乎與西方同期無分軒輊。

對於中國城市的「都市性」之所以會出現這樣曖昧不明的解讀，我認為與史料幾乎都出自官僚士大夫之手，因此都是從政府角度來談論行政（財政、政治）的制度或其行政效率有關，反而類似像民族誌這類鉅細彌遺都加以紀錄的文獻甚少。即使步入二十世紀後，包括從社會學、人類學、地理學等角度來進行的全面性調查和文獻也不是很多，我想這與中國官僚體系持續抗拒這類現況調查的態度有很大干係。

但宗教和信仰這部分，由於原本就與民眾的生活息息相關，且歷代政府並不非一味打壓，因此留下不少的史料。就台灣來看，台灣總督府所設立的臨時台灣舊慣調查會便曾針對清代台灣民間社會的習慣法進行了調查，當然其目的乃是基於殖民統治之所需，所以使用時也必須稍加斟酌。但不可諱言的，這卻是唯一一次針對舊社會所進行的全面性調查。除此之外，還有美、法兩國的人類學者針對家族、都市化和宗教的相關研究，若能將這些成果加以融合的話，我認為在摸索有關中國城市發展的獨特性研究的過程中，以台灣作為題材的研究對促進其進展的可能性是相當高的。

（文責：陳文松）

#### 第四張

姓名：陳○祥

單位：應數所

先生は、これらの昔の都市の発展に関する研究が、現代の都市文明の発展にどのような啓示を与えるとお考えですか。

答：

中国の都市、ことに縣城以上の行政都市は、官僚の居住、その行政機能によって成り立ち、収納した租税の一部の再配分（支出）によって、経済的にも存立していた。また都市には商人、手工業者、労働者も存在したが、かれらは家族、宗族などの血縁団体、あるいはギルド（会館、公所）などの社団の統制の下に束縛され、西洋の中世都市に芽生えたとされる市民の自治、自由、個人的、合理的な行動、福祉や相互扶助の伝統が発生しなかった、というネガティブな判断が Max Weber の『宗教社会学論集：儒教と道教』で唱えられて久しく、中国都市を西洋的な自治観念、市民的自由観念の対極をなす事例として考察されてきました。その一方、世界史的にみても、中国唐宋時代、明清時代は都市が発達し、都市人口が総人口の中で占める割合は恐らく世界でも随一であり、都市化の程度も同様であったのではないかと、という見直しが欧米の中国学者の間でも最近では説かれるようになってきています。このように中国都市の〈都市性〉をめぐる判断が不透明で曖昧であるのは、史料の殆どが政府ないし官僚士大夫の書いた記述であって、政府から見た行政（財務、治安）の制度、あるいはその効率を述べていて、民族誌に相当する実際状況のありのままを描写した記述が甚だ少ないこと、また 20 世紀になってからでも、社会学、人類学、地理学の立場から詳細を悉皆描写した調査や記述があまりなく、中国側もその様な実態調査を拒み続けてきたことも原因で有ろうと思います。

ただし、宗教・信仰関係は民衆の日常生活に深く関わっているので、歴代政府も一概に弾圧することはなく、比較的史料も残されています。台湾については、日本の臨時台湾旧慣調査会が残した慣習法についての調査です。目的は侵略に備える調査なので反省をして使うことが必要ですが、唯一の旧社会についての悉皆調査です。また米国、仏国人類学者による、家族、都市化、宗教についての研究もありますので、これらを総合すれば、中国の都市発展をめぐる独自の研究を、台湾を題材として進展させることが大いに可能だと思います。

## 第五張

姓名：蘇○楠

單位：國立台灣歷史博物館

商人與民間社群團體、透過「寺廟」來運作其經濟產業或公共事務、在中國式傳統都市結構中、應該是常見的互動模式之一。

要請問斯波教授、台南府城的都市發展、跟教授特別關注過的江南城市、或其他地方的中國傳統城市、有什麼彼此相類似的發展趨向、或者、台南府城是否有自己獨特的發展特性、能夠啟發我們理解與思考中國式傳統都市發展模式的課題。

謝謝。

答：

以前社會學者 Robert Redfield 曾提出「大傳統」與「小傳統」的二元論，亦即將官祀與民祀分開對照來各別論述的情形相當多；但是最近則多將焦點聚焦於採用民俗學、人類學和社會史的方法論，不是將兩者分開對立，毋寧是更關注於這些有組織、有制度的宗教如何隨著時代與社會的發展而逐漸被世俗化（vernacularize）的過程。誠如你所提到互動這個面向，從這樣的趨勢發展中也是深具意義的觀察。非常感謝。

美國 UCLA 的 Richard von Glahn 教授在其 2004 年所著 *The Sinister Way* (左道) : *The Divine and the Demonic in Chinese Religious Culture* (Univ. Calif. Press) 一書當中，透過中國史俯瞰信仰逐漸被世俗化的情況後指出，上古時期的祖先信仰是尋求一種神權式令人敬畏的祖先的慰藉；但自漢代以降，祭拜祖先成為家族內道德化的內涵，進而使得儒道佛三教的官祀，變成教團、宗派和神職人員一應俱全的組織性宗教而君臨之上。其間，家族中的祖先祭祀因受道教經典、佛教的影響也開始納入孤魂野鬼的祭拜，甚至也受到天臺、淨土經典的影響而從原本因敬畏祖先而祭拜，多了一種供養、安撫孤魂野鬼、普渡眾生的內涵，於是增加了水陸齋會、齋醮會等祈安普渡的宗教科儀。

在唐宋時期庶民、俗人能夠施展長才的世界更為寬廣，因此以道教經典系統為主的民間宗教也應運而生。其中一個特色就是世俗化，原本以往替地域、地方注入活力健康而生的民祀系統的神祇們，首先以自居某地域、某地方的守護神為始，從而獲得這類的位階。但到了宋代，官方頻頻頒賜匾額給這些神祇，並且頻繁地以授官封爵的方式來封賜界定神祇們彼此間的階層秩序。包括東嶽、真武、城隍、觀音、梓潼、天妃、關帝或關岳等。在清代所採行的大祀、中祀、群祀分類當中，將中祀位階的神祇可供官民雙方祭祀的作法，可說從宋代就開始了。

當 1979 年我在林衡道先生的引領下首次來參觀台南的寺廟時，他曾告訴我說跟中國本土的寺廟比較起來，雖然在本土對於建築上有一定的規範，但台南的寺廟不拘一色而多彩，屋脊的軸線不是直的而是彎弓狀，且屋頂上放置了許多的擺飾等等。不過我想到的，毋寧是因為台南一地充滿著活力，人民對於蓋廟迎神來祭拜的意義和意志的一種毫不曖昧的明確展現，總之那種民俗信仰的能量令人深有所感。此外，掌控祭典的三郊堂等，不但實際上負擔了祭典的財務，同時被賦予調解地方上小型紛爭和仲裁

的權限來加以考量的話，我認為其功能在實質上已接近市政府了。在唐宋、明清時期中國社會的發展中，最為躍動的地方就屬江南地區和東南沿海了。以地理位置來看，在這片廣大的「東南沿海大區域」當中，台灣的躍動不僅僅可從寺廟的活動中看到，而且在台南更留存許多的建築、碑文和調查紀錄能夠見證，因此我常想台南這座城市的事例，是撰寫中國社會史之際非常寶貴的存在。

（文責：陳文松）

## 第五張

姓名：蘇○楠

單位：國立台灣歷史博物館

商人と民間階層の団体が「寺廟」を介して経済産業や公共事務を運営してきたのは、中国式的伝統都市の構造においてよくあるインタラクティブモデルの一つでしょう。

答：

以前は、社会学者 Robert Redfield が唱えた二分法、すなわち‘大伝統’と‘小伝統’つまり官祀と民祀を対照させ、別々に説く事が多かったのですが、最近では民俗学、人類学、社会史の方法に関心が集まり、二分対置ではなく組織的、制度的宗教が時代、社会の発展とともに世俗化 vernacularize していくプロセスにむしろ研究者の興味に移りつつあります。ご指摘の interaction という方向も、こうした視角の流れの中で有意義な着眼点と存じます。ありがとうございました。

アメリカ UCLA の Richard von Glahn 教授が 2004 年に著した、The Sinister Way (左道) : The Divine and the Demonic in Chinese Religious Culture (Univ. Calif. Press) では、中国史を通じて信仰が次第に世俗化 vernacularize した状況を通観して、上古の祖霊信仰は神権的で畏怖に満ちた祖霊の慰撫でしたが、漢代以後、家族内で祖霊を慰謝する道徳的な内容に変わり、やがて儒、仏、道三教の官祀は、教団、宗派、聖職者を備えた組織宗教として君臨します。この間、家族の祖霊崇拜の中に道経、仏教の影響で孤魂、孤魄、厲鬼の祀りを含めるようになり、更に天台・浄土経の影響もあって、先祖の祀りも畏怖から孝養、孤魄の慰霊、衆生済度が加わり、水陸齋会、齋醮会など社会不安を救済する祀りが加わるようになりました。

唐宋時代には庶民、俗人の活躍する世界が広がり、道経系統の民間宗教が形成期を迎えます。一つの特色として、この世俗化は、地域、地方に力を注ぐ健康が生まれ、従来からの民祀系統の神々は、地域、地方の守護神として先ず発祥し、そうした位置づけを得てきましたが、宋代に政府がこれらの神々に賜額（篇額）、授官授爵を盛んに行って神々の階層的な位置づけを行うようになりました。東岳、真武、城隍、観音、梓潼、天妃、関帝ないし関岳などです。清代に行われていた大祀、中祀、群祀の分類のうち、中祀クラスの官民双方の祭祀をうける神々の位置づけは、宋代に始まるといえます。

1979 年に林衡道先生にご案内いただいて私が台南の寺廟を始めて見学したとき、林先生は本土の寺廟と比較されて、本土では一定の建築上の規範があるが、台南の寺廟は色彩が黒一色でなく多彩、屋根の棟の線が直線でなく反っている、屋根の上に沢山の置物が付けられている、などを教えて下さったのですが、私の考えでは、むしろ台南の方が活力に満ち、民が寺廟を迎え祀る意味や意思がはっきりと視角的に明示されている、つまり俗信信仰のエネルギーがよく感じられました。また祭礼

を取り仕切っていた三郊堂などが、祭礼の財務を実質的に負担していたことや、軽微な紛争や裁判を執行できる権限を認可されていたことを考えると、実質的に都市政府に近い機能も備わっていたことを感じました。唐宋、明清の中国社会の発展で最もダイナミックな動きをしめした地域は江南と東南沿岸でした。地理的には「東南沿岸大地域」の中にある台湾の躍動が寺廟の活動のなかにも見られ、またそれを立証できる建物や碑文、調査記録が揃って残されている台南のケースは、中国の社会史を記述する為に大変貴重な存在だと常に考えております。

## 第六張

姓名：陳○堯

單位：國立成功大學歷史學系副教授

1. 從台南府城內的「境」與「郊」的研究、可以（或如何）與 **G.William Skinner** 的城市鄉村分析連接嗎？
2. 在地圖上空白的地方、又要如何理解？

答：

G.W.Skinner 教授的都市分析的着眼點有，第一，中國社會的都市化是建立在河川流域的盆地上；第二，都市化是由行政上的都市化（及其階層）及自然形成的經濟市鎮（及其階層）這 2 個中心地（central-place）的階層交叉的條件(matrix)所形成的；第三，因為第一的結果，中國本土大約並存著 8 至 9 個大地域(macro-regions)，近代以前並未存在著具整合性的一元化、全中國化的都市型態，因此判斷當時應該存在著全國性層次、大地域性層次、及地方層次等三種層次的都市型態。

我的地圖的完成是依據洪敏麟編的『台南市市區史蹟調查報告書』（台灣省文獻委員會編印），然後將道路、官廳、官祠、民祠、境、城壁、城門等寫上。洪敏麟的書又是根據林衡道教授的調查而來的。有關空白部分，連原圖也幾乎沒有記載，只有寫上等高線而已，因此，推測應該是較無人居住的丘陵地吧。

G.W.Skinner 教授本身的主要興趣在地理學及人類學的分析，我的台灣都市化的考察主要是參考 Harry J. Lamley 教授的 “The Formation of Cities: Initiative and Motivation in Building Three Walled Cities in Taiwan”(收錄在 Skinner, ed., *The City in Late Imperial China*, 1977, Stanford) 及 Kristofer M. Schipper 教授的 “Neighborhood Cult Associations in Traditional Tainan”。依 Skinner 教授的說法、都市內的金融機關及重要的批發商店，一般皆位於城門內的市中心地區。接受這樣的說法，我才把六條街及赤崁城周邊的商店定位為市中心區的商店街。

（文責：李啓彰）

## 第六張

姓名：陳○堯

單位：國立成功大學歷史學系副教授

1. 台南府城内の「境」と「郊」の研究は、**G.William Skinner** の都市と農村の分析と関連づけることができますか。或いは、どのような関連がありますか。
2. 地図上の空白な地域は、どのように理解できますか。

答：

1. **G.W.Skinner** 教授の都市分析の着眼の要所は、①中国社会の都市化は河川流域盆地に立地していること、②都市化は行政上の都市化（とその階層）および自然的経済的市鎮（とその階層）という 2 つの **central-place** 中心地の階層が交差する **matrix** から成る。③①の結果、中国本土は 8 ないし 9 の **macro-regions**[大地域]が並んでいて、近代以前では一元的な全土的な都市システムの統合はまだ存在せず、全土レベル、大地域レベル、地方レベルの三層位の都市システムが存在した、という判断です。
2. 私の地図は、林衡道教授の調査に基づいた洪敏麟編『台南市市区史蹟調査報告書』（台湾省文献委員会編印）を典拠にして、道路、官庁、官祠、民祠、境、城壁、城門、などを記入して作成しました。空白の部分は、原図でも殆ど書入れが無く、等高線が記入してあるのみなので、過疎の丘陵地ではないかと想定しました。
3. **G.W.Skinner** 教授自身は地理学、人類学の分析に主要な興味があり、私の台湾の都市化の考察では、**Skinner, ed., The City in Late Imperial China, 1977, Stanford,** に収録された **Harry J. Lamley** 教授の “The Formation of Cities: Initiative and Motivation in Building Three Walled Cities in Taiwan” と、**Kristofer M. Schipper** 教授の “Neighborhood Cult Associations in Traditional Tainan” を参照して教示を得ました。**Skinner** 教授からは、都市内で金融機関や重要卸売り商店は、たいてい城門内の市心の **core** に位置するのが通例であるとの指摘を受け、六条街及び赤崁城周辺の商店を、市心の商店街と位置づけた次第です。

## 第七張

姓名：不詳

單位：不詳

在西洋信仰傳入及各種政權遞嬗下、「境」對城市影響力的變化、及現今在台南的定位。

答：

您所詢問的內容，就我個人的理解，應該是想問，在法國、比利時、西班牙、義大利等拉丁語系的都市中，迄今為止仍然繼續存在的 commune (市單位、市町村單位的地方組織、共同生活體，亦即「公共圈」的問題(哈伯馬斯 Jürgen Habermas))與我所說的台南的「境」之間的關係吧。

中國與西洋相比較，「個人」的權威並不是很發達。換言之，比起個人的意志決定及私圈，親族、宗族、各種社團的利害經常被優先考量、受到尊重，因此以個人為單位來表達公共意思、共同意思的行為或制度，亦即，在生活中，與他人及社會相關的時間、空間，及介於其制度空間之間的公共領域，並不是很發達，這是目前為止西方思想的說法。

但即便如此，也有人認為，在中國的社會中也存在著「公共圈」，也存在著以「公共性」為目標的行為或想法的表達，只是在傳統的歷史敘述下，並沒有被很好地記錄下來流傳到後世。例如，常常傾向於認為，中國的都市中，同業公會或官方的意思決定經常被優先考量，而市民的公共的意思或活動經常遭到壓抑、被忽略，但有研究者認為，若仔細調查資料時，上海、蘇州、杭州、南京等都市中，船運業者之外，大商號或商人等經營被稱為「善堂」、「善會」的育嬰組織；此外，也組織性的經營寡婦的結婚斡旋、醫療提供、貧民救濟、埋葬援助、「惜字爐」等公共事業；清末民初的變革期，漢口、上海等地，商會等有力團體成為疏浚水道等土木工程事業的經營主體，儼然發揮了市公所的機能等，這些都已廣為人知(夫馬進『中国善堂善会史研究』1998, 朋友書店)。

中國直到唐宋為止，佛教、道教等宗教團體都曾大力推動公共的、自治性的社會活動，但歷經唐末、五代到宋代為止，從佛教勢力被政府彈壓以來，這樣的傳統便衰退了。從宋代開始，通俗道教、佛教普及於民間，清代時即成了台南所見的盛況。應該可以這樣想，當人口在明、清時代以 2、3 倍的速度急速成長時，每人所能獲得的行政服務當然有降低的傾向，而在政府力所不及的公共福祉上，自然很多方面需仰賴宗教團體或有力商民的自發性公共活動。

(文責：李啓彰)

## 第七張

姓名：

単位：

西洋信仰の伝来や各種政権の移り変わりのもとで、「境」が都市に及ぼす影響力の変化、並びに現在の台南における「境」の位置づけについてお教えてください。

答：

ご質問の内容を私なりに理解して、フランス、ベルギー、スペイン、イタリアなどのラテン語系都市において、今日でも生き続けている *commune* (市単位、市町村単位の自治体、共同生活体、すなわち「公共圏」の問題 (ユルゲン・ハバーマス) と私が述べた台南の「境」とがどのように関わるのか、というご趣旨と考えます。

中国では、‘個人’の権威が西洋と較べてあまり発達しなかった。すなわち、家族、宗族、各種の社団の利害が個人の意志決定、私圏よりもつねに優先して尊重されるために、個人を単位とする公共の意思、共同の意思を表す行為や制度、つまり生活のなかで他人や社会と関わりを持つ時間や空間、その制度空間との間に介在する公共的な領域はよく発達しなかったと、これまでの西洋の思想では説かれてきた。

しかし、そうではあっても、中国の社会にも「公共圏」が存在し、「公共性」を目標にした行為や意思の表明は存在したが、伝統的な歴史記述の下ではきちんと記録して後世に伝えられなかったのではないかと、という主張がなされるようになってきました。たとえば、中国の都市では、ギルドや官憲の意思決定がつねに先行して、市民の公共的な意思や活動は常に抑圧無視されてきたと唱えられがちであるが、しかし、資料を精査すれば、上海、蘇州、杭州、南京などの都市では、運船業者ほか、有力な商店や商人が「善堂」「善会」と呼ばれる嬰兒救済の組織を運営し、また寡婦の結婚周旋、医療の提供、貧民救済、埋葬援助、「惜字炉」(文字資料の管理)などの公共的な事業を組織的に運営し、清末、民国初の変革に当たっては、漢口、上海などでは、商人組合の有力団体連合が、水路の浚渫何度の土木事業の運営の主体となり、事実上の市役所の機能を執行したことなどが知られてきたと指摘されています (夫馬進『中国善堂善会史研究』1998, 朋友書店)。

## 第八張

姓名：辜○柏

單位：社會人士

台江內海對台南的都市化的影響。

答：

西歐中世的漢薩（Hansa）都市的漢堡（Hamburg），發展於自河口上溯數英里地方，南法的馬賽（Marseilles）也一樣。還有里昂（Lyons）和葡萄牙的里斯本（Lisboa）稍稍位在內陸，結果是同樣的情形，避開外海的風浪有可以停泊的水深和廣度，具有有效防範海盜的要塞防守，而且能取得飲用水與柴炭，商品也聚集的地方是發展成港口城市的前提，於帆船時代特別重要。安平的要塞，有鹿耳門入口處，相當寬廣，在「渡頭」可以補給飲用水。台江內海的鹹水湖，對 15~17 世紀的東亞海運，除了澎湖列島、鹿港外，在臺灣，台南是具備足以使其發展成良好港口城市的條件。改變此時東亞貿易的情勢，隨著 1570 年的馬尼拉開港，委內瑞（Venezuela）、墨西哥（Mexico）生產的銀大量運到亞洲，與中國江浙生產的生絲、華南的砂糖進行交換。在鄰近江浙的寧波海面上的舟山列島之雙嶼島，誕生以葡萄牙為中心的走私基地，西班牙也進出臺灣的基隆、淡水，日本則企圖進出臺南地區。1557 年乃至 64 年，葡萄牙在澳門設置據點，而荷蘭於 1622 年請求澎湖島割讓失敗後，1624 年建蓋了安平要塞。1619 年建造巴達維亞的荷蘭人，也有第一代甲必丹（kapitein）蘇鳴鴻等的獻策，營建 *Provintia* 城（赤崁城），也投注心力於行政和治安之上，但 1661 年為鄭成功所驅逐出境。看臺灣的地形圖，平原集中在西海岸，從東邊的高山流入海水的大河川為數有限。這樣的河川流出海岸的地點，其自身具備集散都市 *emporium* 成長的潛在力。它曾經是存在過批發組織被稱為“郊”的流通機構，不管在台南、鹿港，或是台北、淡水，與中國本土的江蘇、浙江、福建、廣南的集散都市交易買賣行使機能性分工的狀況，說明臺灣城市化的方向性。由此可以看到發達於台江內海的台南城市化的事例，象徵著臺灣全體的城市化。

（文責：陳玉女）

## 第八張

姓名：辜○柏

單位：社會人士

台江内海が台南の都市化に及ぼした影響について教えてください。

答：

西ヨーロッパ中世の Hansa 都市の **Humburg** は河口から数マイル遡ったところに発達し、南フランスの **Marseilles** もおなじ、また **Lyons** やポルトガルの **Lisboa** がやや内陸部にあるのも、結局は同じ理由でして、外洋の風波を避けて停泊できる水深と広さがある、海賊を有効に防げる要塞の守りが備わり、しかも飲用水と薪炭が手に入ると、商品も集められる場所が、港湾都市として発達する前提をなし、帆船時代にはとくに重要でした。安平の要塞、鹿耳門という入り口があり、相当な広さがあり、「渡頭」で飲料水を補給できるという、台江内海の鹹湖は、15~17 世紀の東アジア海運にとって、澎湖諸島、鹿港を除く台湾では、台南が良好な港湾都市を発達させる為の条件を備えていたと思われます。この頃の東アジア貿易の様相を一変させたものとして、1570 年のマニラ開港にともなって **Venezuela, Mexico** 産の銀が大量に **Asia** に運ばれ、中国の江浙産の生糸、華南の砂糖と交換されたことがあります。江浙に近い寧波沖の舟山列島の双嶼島にポルトガルを中心にした密輸基地が生まれ、スペインも台湾の基隆、淡水に進出、日本も台南方面に進出を企てました。1557 年ないし 64 年にポルトガルはマカオに拠点を設け、オランダは 1622 年に澎湖島の割譲を求めて失敗して 1624 年に安平要塞を築きました。1619 年にバタビアを建設したオランダは、初代の甲必丹蘇鳴鴻らの献策もあって **Provintia** 城（赤崁城）を営み、行政や治安にも力を注ぎますが、1661 年鄭成功によって退去させられます。台湾の地形図を見ますと、平野部は西海岸に集中し、東方の山岳から海に注ぐ大河川の数は限られています。こうした河川が海岸に出る地点は、自ずから集散都市 **emporium** として成長する潜在性を備えています。かつて存在した卸売り機構であり「郊」と呼ばれる流通機構が台南でも、鹿港でも、台北、淡水でも、本土の江蘇、浙江、福建、広南の集散都市との取引を以て機能的に分化してきた状態は、台湾の都市化の方向性を物語っていると思われます。台江内海に発展した台南の都市化の事例は、台湾全体の都市化を象徴していると思えます。

## 第九張

姓名：王○東

單位：鳳凰城文史協會

三郊收益按量徵收 1—2%的厘金、這「厘金」是否會和官方徵收的「厘金」或「子口半稅」混淆、是不是以「抽分」來稱呼、較為適當。

答：

三郊從會員徵收「釐金」、作為支出項目的財源、這內容見於臨時台灣舊慣調查會編的『台灣私法』第 3 卷「商事」。我本身在 1970 年代時調查了日本北海道函館市的關帝廟、即以上海為據點的寧波中心的三江幫海產物商人的連合中華會館（現在為福建的福清幫的各行業的會館）所保存的帳簿資料、之後也作了報告、收錄在山田信夫編的『日本華僑と文化摩擦』（巖南堂、1983、pp.37-117）和『函館華僑關係資料集』《大阪大学出版会、大阪大学文学部紀要 22、1982，12 月》。

在函館、中華會館的帳簿裏、有<釐捐>、更保存有<公所月捐報單>的簿冊。關帝廟=中華會館於 1910 年 12 月以同德堂三江公所的會館而成立、各號商店都需填寫如下的申告單向司事《年別幹事》報告買賣實況、以此為憑據而制作了徵收<釐捐>的帳簿。

「 月份敝號出口貨報明計海帶《昆布》每包壹分、算計．．．包、捐金．．．．、  
《帶系》(刻昆布)每箱五厘、算計．．．箱、捐金．．．．、  
《雜貨》每件四分、算計．．．件、捐金．．．．、  
公合計捐金．．．．、  
此繳三江公所 司事先生、 具 光緒 年 月 日 」

因此、就名稱上來判斷、或許會被認為是来自清末、民國初期由國家導入的內地關稅「釐金」一詞而來、但是更自然的推測則如下：

當時在民間已經有社團為了徵收會費、採取依營業額的百分比、以自我申告的方式共同據出、充當為社團的必要經費、由每月或每年的負責人運作經營、這制度乃由「釐金」的慣用而存在、知道此方法和名目的清朝政府、導入作為非常時期的稅法、而有了「釐金」稅而廣被認知。

(文責：林秀薇)

## 第九張

姓名：王○東

單位：鳳凰城文史協會

三郊は貨物を計量して1~2%の厘金を徴収することにより収益を得ていたとありましたが、この「厘金」は、政府が徴収した「厘金」あるいは「子口半税」と混同されているのではないのでしょうか。「抽分」と称した方が適切ではないのでしょうか。

答：

三郊が支出項目の財源に充てるために「釐金」を会員から徴集したことは、臨時台湾旧慣調査会編『台湾私法』第3巻「商事」に拠っています。私自身、1970年代に日本北海道函館市に存在する関帝廟、すなわち上海を拠点とする寧波中心の三江幫海産物商人の連合中華会館（現在は福建の福清幫の諸業者の会館）が保存する帳簿資料を調査し、山田信夫編『日本華僑と文化摩擦』（巖南堂、1983, pp. 37-117）および、『函館華僑関係資料集』《大阪大学出版会、大阪大学文学部紀要22, 1982, 12月》に報告しています。函館では、中華会館の帳簿の中に〈釐捐〉あるいは〈公所月捐報単〉の簿冊が残っています。関帝廟＝中華会館は1910年12月に同徳堂三江公所の会館として成り、各号商店が「月份敝号出口貨報明計海帶《昆布》每包壹分、算計……包、捐金……、帶糸（刻昆布）每箱五厘、算計……箱捐金……雜貨每件四分、算計……件、捐金……、公合計捐金……、此繳三江公所 司事先生、具 光緒 年 月 日」と印刷された申告用紙に記入して司事《年別幹事》に報告し、これを土台にして〈釐捐〉のための帳簿が作成されていました。従って、名前から判断すると清末、民国初に國が導入した「釐金」という内地関税に因んで呼んだように思われますが、むしろその逆で、民間で社団が会費を徴収するために行っていた取引や営業売上げのパーセント程度を自己申告によって共同で醸出して、社団の必要経費を月当番、年当番が運営のために支出する制度が「釐金」の慣行として存在していて、この方法と名目を清朝政府が非常時の税法として広くおこなったのが「釐金」税として知られていると考える方が自然であると思われます。